

ヨーロッパ世界

欧米における近代社会の成長

12 次の文章を読み、あとの各問いに答えよ。

18世紀後半は、世界史上重要な意味を持つ時代であったといえる。イギリスの産業革命は一層進展し、アメリカ大陸やヨーロッパでは市民革命が起こった。産業革命と市民革命という「二重革命」^①を通じて、近代的な社会や国家が本格的に姿を現した。また、これらの革命を経験し影響を受けた欧米諸国によって、19世紀の世界は真の意味で一体化していくことになった。

18世紀後半のフランスでは財政が行き詰まっていた。国王ルイ16世の政府は財政改革を試みたが、特権身分が反発し、Aの開会が認められた。1789年5月に開かれたAでは、特権身分と第三身分が対立し、第三身分は独自のBを作った。しかし、国王がこれを弾圧しようとしたため、パリの民衆は立ち上がり、C牢獄を占領した。これを機に全国各地で暴動や一揆が起こった。事態打開のため、BはDの廃止を決定した。その後、国王とBはパリに移され、様々な改革が行われた。この間、国王は国外への逃亡を企て、国民の信頼を失っていった。新しく開かれたEでは、立憲君主派と、共和政を主張するF派が対立した。フランス国内外で革命に反対する動きが強まる中、F派の内閣はオーストリアに宣戦した。しかし、フランス軍は敗北を続けた。こうした状況の下、パリの民衆と全国から集まった義勇軍が立ち上がり、王権を停止させた。そして、男子普通選挙による新しい議会の招集が決定された。新議会Gは、共和政を宣言し、国王は処刑された。これに対して、諸国の間で第1回対仏大同盟が結成され、フランスへの圧力が強まった。GではF派と、急進共和派であるH派の対立が深まり、やがてH派が権力を握ると、強力な独裁政治を進めた。しかし、1794年7月、この独裁は、Iの反動と呼ばれるクーデタで倒された。新しく成立したJ政府は無力で、政治と社会は不安定になった。こうした時代を背景に、1799年、有能な軍人であったナポレオンはクーデタを起こして政府を倒し、権力を握った。そして、ナポレオンの独裁政治^②が始まるのであった。

問1 空欄 A ~ J に該当する最も適切な語句を、次の中からそれぞれ選び、符号で答えよ。

- ア. ヴァルミー イ. ヴァレンヌ ウ. ギルド エ. 公安委員会
オ. 高等法院 カ. 国民議会 キ. 国民公会 ク. 最高価格令
ケ. 三部会 コ. ジャコバン (山岳) サ. ジロンド シ. 総裁
ス. テルミドール セ. 統領 ソ. バスティーユ タ. バブーフ
チ. ピルニッツ ツ. フイヤン テ. ブリュメール18日 ト. 封建的特権
ナ. ラ=マルセイエーズ ニ. 立法議会

問2 下線部①に関して、アメリカの独立革命に関する記述として波線部が正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。

ア. 北アメリカにおけるイギリスの13の植民地では、南部だけでなく北部でも黒人奴隷を使う大農園（プランテーション）が発達していた。

イ. 18世紀後半の七年戦争ののちも、イギリス本国政府の13の植民地に対する政策はほとんど変わらなかった。

ウ. 1765年の茶法に対して、13の植民地の人々は、「代表なくして課税なし」という主張の下、激しい反対運動を繰り広げた。

エ. 独立後のアメリカ合衆国は、合衆国憲法に基づき、連邦制の上に三権分立制を持つ国家としてスタートした。

問3 下線部②に関して、ヨーロッパ大陸の支配を目指したナポレオンに対して、一時期を除いて終始敵対し、彼にとって最大の障害となった国名を記せ。